

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## Professor FUNAYAMA Chuta' s Curriculum Vitae and List of Works

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2384">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2384</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 船山 仲他 (FUNAYAMA Chuta)

### 履歴・研究業績



(2017年9月1日現在)

#### 1. 経歴

- |          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 1950年    | 大阪府生まれ                        |
| 1969年3月  | 大阪府立北野高等学校卒業                  |
| 1974年3月  | 大阪外国語大学外国語学部ロシア語学科卒業          |
| 1976年3月  | 京都大学大学院文学研究科修士課程言語学専攻修了       |
| 1979年3月  | 京都大学大学院文学研究科博士課程言語学専攻単位取得満期退学 |
| 1986年10月 | 京都工芸繊維大学繊維学部助教授               |
| 1991年4月  | 大阪府立大学総合科学部助教授                |
| 1997年4月  | 同学部教授                         |
| 1998年8月  | スタンフォード大学客員研究員 (1999年7月まで)    |
| 2003年4月  | 神戸市外国語大学外国語学部教授               |
| 2017年3月  | 同上退職                          |
| 2017年4月  | 同上名誉教授                        |

## 研究業績

### 【著書】

- 1986 『言語学を学ぶ人のために』（共著）世界思想社  
1989 『講座日本語と日本語教育第 11 巻 言語学要説（上）』 崎山理（編）担当：  
生成文法の統語論 pp. 131-160. 明治書院.

### 【訳書】

- 1978 『適用文法入門』（西田龍雄監訳）大修館書店.

### 【研究論文】

- 1981a The Ni-Ga Construction in Japanese. *Descriptive and Applied Linguistics* Vol. XIV, pp. 25-36.  
1981b Contact: a Barely Overt Semantic Feature, *Descriptive and Applied Linguistics* Vol. XV, pp.59-70.  
1983 On Systematic Description of Ergativity, *Kansai Linguistic Society* 3, pp. 41-50.  
1985 「同時通訳の諸側面」 『視聴覚外国語教育』 8:1, pp. 49-66.  
1986 Semantics of Deverbal Adjectives in English, *English Linguistics* 3, pp. 38-57.  
1989 「述語の下位範疇化と意味役割」 『京都工芸繊維大学繊維学部学術報告』 13, pp. 159-167.  
1990a 「文法項と非文法項の連続性について」 『京都工芸繊維大学繊維学部学術報告』 14, pp. 159-167.  
1990b 「文法関係と基本格」 『アジアの諸言語と一般言語学』（編集代表 崎山理・佐藤昭裕） pp. 595-613 三省堂.  
1991 Theta-Grids and Lexical Conceptual Structure, 『京都工芸繊維大学繊維学部学術報告』 15, pp. 133-147.  
1992a 「語彙概念構造と状況概念構造」 『大阪府立大学紀要（人文・社会科学）』 40, pp. 55-71.  
1992b 「言語理解における予想作用について」 『英米文学』 40, pp. 43-57.  
1993a 「関係概念に基づく述語の分類」 『大阪府立大学紀要（人文・社会科学）』 41, pp. 83-95.  
1993b 「談話結束性のための認知ファイル」 『英米言語文化研究』 41, pp. 89-101.  
1994a 「接触関係の語彙化」 『大阪府立大学紀要（人文・社会科学）』 42, pp. 131-143.  
1994b 「同時通訳に現れる“認知ファイル”」 『時事英語学研究』 33, pp. 1-12.  
1995a 「結果構文の概念構造」 『大阪府立大学紀要（人文・社会科学）』 43, pp. 51-63.  
1995b On the Nature of Thematic Structure, 『英米言語文化研究』 43, pp. 37-50.

- 1996a 「言語理解における非局所的処理」 『大阪府立大学紀要（人文・社会科学）』 44, pp. 59-65.
- 1996b 「同時通訳における処理単位について」 『通訳理論研究』 10, pp. 4-13.
- 1996c 「同時通訳教育の理論的基礎」 『研究報告』（日本時事英語学会） pp. 1-10.
- 1996d On the Processing Units in Simultaneous Interpreting, 『英米言語文化研究』 44, pp. 1-18.
- 1996e 「時事英語の理解について—認知ファイルの観点から—」 『時事英語学研究』 35. pp. 15-26.
- 1997 「認知要素としての意味関係」 『英米言語文化研究』 45, pp. 175-187.
- 1998a 「多文化主義の中の人種問題—オーストラリアの場合—」 『英米言語文化研究』 46, pp. 105-116.
- 1998b 「語彙習得過程におけるシャドーイングの貢献度」 『シャドーイングの応用研究』 pp. 17-27.
- 2000a Grammaticalized Perspectives in Discourse, 『英米言語文化研究』 48, pp. 53-68.
- 2000b 「同時通訳の認知的側面を構成する要素について」 『同時通訳における情報フローの認知言語学的検証』（平成 10-11 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書） pp. 3-26.
- 2002a Cognitive Objects in Verbal Comprehension, 『大阪府立大学言語文化研究』 1, pp. 35-44.
- 2002b Cognitive Tags in Simultaneous Interpretation, 『通訳研究』 2, pp. 15-27.
- 2004 Conceptualization Processes in Simultaneous Interpretation, 『通訳研究』 4, pp. 1-13.
- 2005 「発話理解のミクロモデル」 『同時通訳データに基づく言語理解過程のミクロ分析』（平成 15-16 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書） pp. 1-16.
- 2006 「発話理解のオンライン概念表示」 『神戸外大論叢』 57, pp. 1-22.
- 2007a Enhancing Mental Processes in Simultaneous Interpreter Training, *The Interpreter and Translator Trainer* 1:1, pp.97-116.
- 2007b 「英語ニュース理解における背景知識の役割」 『時事英語学研究』 46, pp. 17-30.
- 2012 「通訳するための思考」 『通訳翻訳研究』 12, pp. 3-19.
- 2015 「医療通訳におけるアドボカシー」 『医療通訳・コーディネーターの育成：大学教育カリキュラムの可能性』（科研費基盤研究（B）24390479「医療通訳・コーディネーターの教育プログラムの看護大学と外国語大学による共同開発」） pp. 99-104.

【書評・書評論文】

- 1980 「論理学の言語と言語学の論理—『日本語の文法と論理』（坂井秀寿）—」 『思想』（岩波書店）676, pp. 118-128.
- 1992 'Argument Structure by Jane Grimshaw' 『言語研究』102, pp. 148-164.

【一般記事】

- 1997 「同時通訳と認知言語学」 『月刊言語』1997年8月号 pp. 28-35.
- 2001 「推論モデルから見た通訳」 『通訳翻訳ジャーナル』2001年7月号 pp. 90-91.
- 2015 「同時に訳す」 定延利之（編）『わたしたちの日本語研究』 pp. 160-164. 朝倉書店.

【講演】

- 2013.6.27 「同時通訳のオンライン性」 大阪大学言語社会学会, 記録所収: *EX ORIENTE* 21, pp. 193-208.
- 2015.9.12 「通訳プロセスの分析可能性」 日本通訳翻訳学会第16回年次大会, 青山学院大学.
- 2016.1.9 「音声言語の同時通訳における概念化のプロセス」 みんぱくセミナー 『通訳学☆最前線』 国立民族学博物館

【口頭発表】

- 2004.6.20 「同時通訳における想定構築」 日本言語学会第126回大会ワークショップ『研究資料としての同時通訳データ』 東京学芸大学.
- 2016.3.20 「サイトラにおける概念化のステップ」 日本通訳翻訳学会 サイトラ研究プロジェクト公開研究会, 神戸研究学園都市大学共同利用施設